

福島の基板修理工場買収

京西テクノス

医療機器や計測器などの修理・保守を手掛ける京西テクノス（東京都多摩市）は東北地方の拠点を拡充する。福島県いわき市で電子基板の修理を手掛けるビオラ（京都市）を9月末に完全子会社化した。11月1日付で同県福島市、栃木県小山市の計測器校正サービスの拠点を自社の郡山事業所内（福島県郡山市）に移転、北日本エリアでサービス体制を強化する。

北日本でサービス強化

子会社化したビオラは、ボール状のはんだを並べて実装した半導体パッケージのBGA（ボール・グリッド・アレイ）の修理や、X線検査による部品実装基板の故障診断などを強みとする。京西テクノスはメーカーのサポートが終了した機器などを修理・延命する同社の「KLES（クレス）」事業で、電子基板分野のサービス充実を図る。ビオラの買収額は約3億円。福島市と小山市のサー



郡山事業所に新設した計測器の校正センター（福島県郡山市）

ビス拠点は、2019年と21年にそれぞれNECグループ、富士通グループから買収した事業を両社の工場内で継続していた。賃借契約が満了を迎え、京西テクノスの郡山事業所内に2億円を投資して施設を新設して拠点を集約。業務の効率化に加え、自社施設を拠点として新たな顧客獲得につなげる。

同社の25年9月期の連結売上高は200億円を突破し、5年間でほぼ倍増した。27年1月には京都市に6階建ての「第2本社」を新設し、西日本の顧客開拓・サービスの充を進める。